

第3回 福岡空港回転翼機能移設事業 環境影響評価技術検討委員会

(議事要旨)

日 時：平成28年5月25日(水) 14:00～15:30

場 所：国土交通省福岡空港事務所 2階 A会議室

出席委員：

薛 孝夫 (元九州大学農学研究院 准教授)

野上 敦嗣 (北九州市立大学 国際環境工学部 教授)

松藤 康司 (福岡大学 工学部 教授)

吉久 光一 (名城大学 学長)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 環境影響評価に係る手続きの経過報告について

- ・資料1「環境影響評価に係る手続きの経過報告について」について、事務局より説明を行った。

2. 環境影響評価項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定について

- ・資料2「意見の概要及び対応方針(案)」について、事務局より説明を行った。
- ・欠席された委員からの助言について、事務局より次のとおり紹介を行った。
 - ①鳥類に係る調査については、実態を正確に把握するため、飛行高度の確認を含め十分に行うこと。
 - ②動植物に係る調査については、マニュアルのみならず、関係機関の有する調査データも活用しつつ面的に行うこと。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、対応方針(案)の内容について、了解が得られた。

【個別的事項】

■資料2

P3

委 員：意見書は8通であるが、意見の数としては多いので、意見数を整理するとよい。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

P11

委 員：騒音や超低周波音については、関心が高いと思う。「飛行の前後に行う整備点検等を考慮するとご指摘の時間帯が多くなる」とはどういう意味か。

事務局：ヘリコプターは、有視界飛行方式により飛行するため、ほとんどは日中の離着陸となる。勤務時間が始まってから飛行前の整備点検を行うことや、飛行後に整備点検を行うことを踏まえると、日中の中でも、ご指摘の時間帯の離着陸が多くなっているものと考えている。

委 員：「毎分ごとの集計」との表現は修正すること。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

委 員：「運航事業者等と協議を進めております」とあるが、これが大事である。予測する前に十分調整すること。

P13

委員：筑紫少女苑の職員宿舎は「住宅」であるとの意見について、騒音・振動などについてしっかり対応してもらいたい。

P14

委員：実機飛行による調査では、「騒音レベル」だけでなく周波数特性も把握する必要があるため、「騒音レベル等」と記載した方がよい。同種の記載のある他のページも同様。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

委員：音は、風上よりも風下の方が、気象条件によっては日中よりも夜間の方が伝わりやすい。ここで述べられている意見は、音が屈折してよく聞こえるようになる気象条件（地表面の温度が上空より下がる接地逆転）について指摘しているのではないか。これに対する対応方針（案）の記載が必要ではないか。

事務局：調査では気温等も測定し考察を行いたい。ご指摘を踏まえ記載内容を修正する。

P16

委員：単なる「パワーレベル」では何を指しているのかが判らないため、「音響パワーレベル」と記載した方がよい。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

P17

委員：漁業については、一般的に環境影響評価の対象とはなっていないが、漁業者からも意見書が提出されていることから、魚類への影響について調査して整理しておくことが必要である。

事務局：今後とも丁寧に説明し対応していく。

P18

委員：落下物の実態が1件とあるが、その割合の程度がわかるように、全体の発着回数（分母）を示すことは可能か。

事務局：対象空港に常駐するヘリコプターの発着回数について集計できるかも含め確認する。

P19

委員：「低周波音の測定方法に関するマニュアル」は、平成12年に策定されたもの。その後の最新の知見も確認しておくといよい。

P20

委員：意見の「墜落による人間の身体・生命に直接関わる事柄」について、対応方針（案）で触れておくべきではないか。

事務局：事故等については、環境影響評価の対象とはなっていないものご指摘を踏まえ加筆する。

委員：「さらには、」は削除した方がよい。

事務局：ご指摘を踏まえ削除する。

P28

委員：実機飛行による調査では、どの程度の高度を飛ぶのか。

また、住宅地上空を飛ぶ時の騒音を測っておいた方が良いのではないか。

事務局：実機飛行による調査では、高度 200m 以下の将来の運航実態を想定した場周経路を飛行する予定である。

委員：場周経路上では、上昇・下降時の騒音測定になるのではないか。予測の基礎資料として使うためには、水平飛行時の騒音も測定する必要があるのではないか。

事務局：ご指摘頂いたとおり、上空を水平飛行する際の騒音も測定する。

委員：超低周波音の測定は、風の影響を受けやすいので、測定の予備日を設けることはできないか。

事務局：1 日の中で複数回飛行する予定であるため、風の影響がないときのデータも取れると考えている。なお、当日が荒天等の場合は、調査の延期はあり得る。

委員：夜に実機飛行による測定は行わないのか。住民は夜間の飛行が気になるのではないか。

事務局：夜の実機飛行による調査は行わないが、予測では夜間の運航についても反映する。

ヘリコプターは、有視界飛行方式により飛行するため、ほとんどは日中の離着陸となる。

3. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

以上